

日本船主協会 環境セミナーを開催

～環境問題の現状を共有～

日本船主協会は3月6日、環境セミナーを都内で開催した。このセミナーは環境に関する情報や問題意識の共有を目的とするもので、同協会会員会社をはじめ、関係省庁や海事関係団体・企業など100名超が参加し、講演者の話に熱心に耳を傾けていた。

セミナーでは、当協会副会長・環境委員長である小林道康 JX オーシャン株式会社社長の開会挨拶に続き、鬼頭昭雄 筑波大学生命研究系 主幹研究員に「気候変動と海：地球温暖化予測の最前線」をテーマにご講演頂いた。鬼頭氏は気候変動について日本や世界の地上気温や降水量、二酸化炭素濃度、水温など様々な観測データを用いて説明。気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第1作業部会の評価報告書は人間による影響が20世紀半ば以降に観測された温暖化の主要な原因があった可能性が極めて高いと科学的に結論付けており、気候変動を抑制するには温室効果ガス排出量の大幅かつ持続的な削減が必要と指摘した。続いて、須藤繁 帝京平成大学現代ライフ学部教授に「船舶燃料の硫黄分規制と石油市場」をテーマにご講演頂いた。須藤氏は石油業界のこれまでの環境規制への対応と硫黄分規制がもたらす影響を説明した上で、硫黄分規制への対応は短期的に低硫黄燃料への切り替えが中心となることが考えられる一方、長期的には排ガス洗浄装置(スクラバー)の搭載や(LNG 等への)燃料転換が中心と見られるが、今後の課題は各対応策の経済合理性の見極めが必要との見解を示した。



写真：小林環境委員長(左)、鬼頭昭雄氏(中央)、須藤繁氏(右)

【講演資料】(講演タイトルをクリックすると資料をダウンロードできます)

鬼頭 昭雄氏 「気候変動と海：地球温暖化予測の最前線」

須藤 繁氏 「船舶燃料の硫黄分規制と石油市場」

日本船主協会では海事関係者等を対象とする海上安全・環境保全に関するセミナーを今後も継続的に開催し、問題意識の共有等を図っていくこととしている。

以上